『2025年版　まんがでわかる 保育士らくらく要点マスター』ダウンロード特典
保育士実技試験用「３びきのこぶた」台本

＜注意事項＞

・『2025年版　まんがでわかる 保育士らくらく要点マスター』のＰ323～もご参照ください。
・お話を聴いている子ども達を楽しませる気持ちで、受験者自身も楽しくお話ができるようにしましょう。
・タイトルは、必ず忘れずに、子どもたちに向けてゆっくり、はっきり伝えましょう。
・ナレーションとセリフの声や表現は、子ども達に違いがわかるようにはっきりと変えましょう。
・お話を聴いている子ども達は、15人程度であり、複数の子ども達をイメージした話し方を心がけましょう。
・場面が変わるところは、しっかりと「間」を取りましょう。
・お話の最中は、試験官に視線を送る必要はありません。子ども達一人一人に目線を送るようにしましょう。
・評価はタイトルとお話の部分のみでされます。お話の前後における子ども達への声掛けなどは一切必要はありません。
・身ぶり手ぶりは、適度に入れましょう。ただし、入れ過ぎると素話ではなくお芝居になってしまうので注意してください。
・本紙の一部または全部を無断で複製、転載することを禁じます。

台　本	ポイント
３びきのこぶた	タイトルはゆっくりはっきりと。
むかしあるところに、３びきのこぶたがいました。	話の出だしは、落ちついたトーンで話し始めます。
ある日、お母さんが３びきに言いました。 「お前たちはもう大きくなったのだから、自分の家を建てて暮らしなさい」	お母さんのセリフは、お話を聴いている子どもたちが自分に話しているような感覚になるよう、やさしく子どもたちに向かって語りかけましょう。
そこで３びきは自分の家をつくることにしました。	
一番大きなおおぶたちゃんは、ふわふわのワラのお家をつくりました。 二番目のちゅうぶたちゃんは、トントントンと木のお家をつくりました。 三番目のちいぶたちゃんは、かたくて丈夫なレンガのお家をつくりました。	
さて、そんなある日、お腹を空かせたオオカミが、山からやってきました。	
「おや、このわらの家の中からおいしそうなこぶたのにおいがするぞ」	少し怖そうな感じでオオカミのセリフを言いましょう。以下（怖）

オオカミは、言いました。 「おい、こぶた。このドアを開けろ！」	 (怖)
「いやだよ～」	こぶたのセリフは、少しおびえたように表現しましょう。
「それならこんな家、吹き飛ばしてやる。フゥフのフー！」 オオカミは、あっという間に、わらの家を吹き飛ばしてしまいました。	(怖) 「フゥフのフー！」は、お話全体の中で最も力強く大きな声で。以下(強)
おおぶたちゃんは、急いで木の家に逃げ込みました。	少し早めのテンポで（急いでいる感じで）語りましょう。
そこへまたオオカミがやってきて、 「おいこぶた！このドアを開けろ！」 「いやだよ！開けるもんか」 「そうか、それなら…フゥフのフー！」 オオカミは、木の家も吹き飛ばしてしまったのです。	 (怖) (強)
２ひきは、慌ててレンガの家に逃げ込みました。	さらに慌てている感じで、速めのテンポで語りましょう。
そこへ追いかけてきたオオカミは言いました。 「やい、こぶた！　このドアを開けろ」 「いやだったらいやだ！」 「それならこの家も吹き飛ばしてやる」 フゥフのフー！	 (怖) (強)
「アレ？？」	オオカミの「おかしいな？」という気持ちを表すような表情で言いましょう。
オオカミが何度息を吹きかけても、レンガの家はびくともしません。 怒ったオオカミは、えんとつから中に入ることにしました。	
家の中ではこぶたたちが、えんとつの下に、 熱～いお湯の入った大きなお鍋をおいていました。 そうとも知らないオオカミは、えんとつから入ってきて…	 大きなお鍋を～のところで、両腕で抱えるように輪をつくり、大き

ドボーン！ 「あちちちち」 おしりにやけどをしたオオカミは、山へ逃げていきました。 それからというもの、3びきは、いつまでも仲よく暮らしましたとさ。 （おしまい）	なお鍋を表現する身振りをいれてもいいですね。 「ドボーン」と「あちちちち」は、大きな声で表現します。 出だしのトーンと同じく、穏やかな語りで終わりましょう。 時間が余りそうな場合は、ゆっくりと「おしまい」を子どもたちに向かって言いましょう。

株式会社 実務教育出版